

目次

1	研究主題に関する国語科の基本的な考え方	1
2	授業研究	2
(1)	小学校における授業研究	
【授業研究1】	小学校第6学年「ともに考えるために伝えよう」 - 情報を広く取り入れ，整理し，自分の考えを適切に表現するための学習指導の在り方 -	2
【授業研究2】	小学校第2学年「じょうずにならべて！せつめい名人」 - 時間的な順序，事柄の順序を考え，自分の伝えたいことを適切に表現するための学習指導の在り方 -	7
(2)	中学校における授業研究	
【授業研究3】	中学校第2学年「伝えよう私の思い，受けとめようあなたの思い『フォト五七五を書こう』」 - 語感を磨き，語彙を豊かにし，自分の思いを適切に表現するための学習指導の在り方 -	12
【授業研究4】	中学校第1学年「視野を広げる」 - 叙述に即して主題を考え，自分の思いや考えを適切に表現するための学習指導の在り方 -	17
(3)	高等学校における授業研究	
【授業研究5】	高等学校第2学年 現代文「地震災害への意見文を通じて過去・現在・未来をつなぐ」 - 情報を収集して整理し，自分の意見を進んで表現するための学習指導の在り方 -	22
【授業研究6】	高等学校第3学年 現代文「遺伝情報から解放される生き方の模索」 - 筆者が掲げる問題提起に対する自分の主張を適切に表現するための学習指導の在り方 -	27
3	研究のまとめ	32

1 研究主題に関する国語科における基本的な考え方

【国語科における豊かな学び】

児童生徒一人一人が主体的に学びの喜びや楽しさを味わいながら、日常生活や社会生活に、また社会人として必要な言語能力を確実に身に付けていくことが豊かな学びであるにとらえた。本研究においては、日常生活や社会生活、また社会人としての必要な言語能力として重視されている「適切に表現する能力」の育成に視点を置き、教師の豊かな発想のもと授業を構築し、児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の在り方について考察することにした。

【適切に表現する能力の育成】

以下のことから、「国語を適切に表現」する能力の育成が現状の課題であるにとらえ、自分の考えを、自分の言葉で、適切に表現することができる国語科学習指導の在り方について考察する。

学習指導要領等から

- ・国語科の目標について、「社会生活に必要な言語能力を確実に育成する」ことを前提として、「自分の考えを自分の言葉で、積極的に表現することをより重視して、『適切に表現する能力』を最初に位置付けている。」としており、現在の国語科においては、適切に表現する能力の育成を重視することの必要性が示されている。高等学校の目標においては、「的確に表現し」との表記になってはいるが、趣旨は同様である。
- ・「自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。」とあり、「意見を述べる」、「適切に表現する」などの能力の育成を重視することの必要性が示されている。

読解力向上に関する指導資料（平成17年12月）から

- ・「記述式の問題を苦手としていることが明らかになった。この結果は、読む能力にとどまらず、書く能力とのかわりを示唆している。また、このような力は、まさに自ら学び自ら考えるなど『生きる力』に直結するものであり…」とあり、読解力向上の視点からも、表現する能力を育成することの必要性が示されている。

中央教育審議会答申（平成20年1月）から

- ・（ ）改善の具体的事項（小学校）では、「中学年では、調べたことや観察・実験したことを記録・整理し、説明や報告にまとめて書き、（中略）高学年では、目的に応じて自分の立場から解説や意見、報告を書き」と述べ、同（中学校）では「根拠を明確にしながら自分の考えを簡潔にまとめて記述したり、多様な文章や資料の形にまとめ、分かりやすく発表したり」と述べるなど、新しい学習指導要領においても、適切に表現するための活動がより重視される方向性が示されている。

【適切に表現する能力を育成するための手立て】

児童生徒が主体的に学びの喜びや楽しさを味わいながら、適切に表現する能力を身に付けるために、主に次のような手立てを踏まえた単元あるいは授業を構築する。

学習の目的や見通しをもつための工夫

自分の考えを適切に表現するための工夫

- ・書くことの習慣化を図る活動
- ・得た情報を整理したり再構成したりして、発信する学習
- ・語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

2 授業研究

【授業研究1】 小学校第6学年「ともに考えるために伝えよう」

- 情報を広く取り入れ，整理し，自分の考えを適切に表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

筆者のユニバーサルデザインについての考えをとらえた上で，身の回りにある公共施設や物を調べ，ユニバーサルデザインという視点から自分の考えをまとめ，発表する单元である。この单元では，取材したものの中から，書く必要のある事柄を適切に取捨選択したり，整理したりしながら，相手に応じて自分の考えを書くことをねらいとしている。

本学級の児童は，調べ学習等には真剣に取り組むが，その手立ては図書資料やインターネットなど手近なものに頼ってしまう傾向がある。また，まとめる段階においては，調べたことを羅列するだけで，調べた内容を適切に取り上げながら自分の考えをまとめることができない児童が多い。

そこで，書くことの習慣化を図るとともに，児童がより広く情報を収集し，必要がある事柄を整理して相手意識をもって自分の考えを書くことができるようにしたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

提案書の作成

ユニバーサルデザインという立場から身近にある公共施設や物を取り上げ，その改善策や対応策等について提案書を書くという学習課題を設定する。その際，提案する相手を，友達，親，学校などと明確にし，相手意識をもつことができるようにする。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

書くことの習慣化を図る活動

日常の出来事などを継続して書き残す活動

日常生活において，その日の出来事や自分の思いなどをノート1ページ程度に継続して書き残す活動を取り入れる。このことにより，児童の書くことに対する抵抗感を払しょくするとともに，効果的な表現を考えたり，書き方を工夫したりしようとする意識を高めることができるようにする。

得た情報を整理したり再構成したりし，発信する学習

ユニバーサルデザインに対する理解を深める学習過程

単元の導入段階において，本文を読み取った後，ユニバーサルデザインについて調べ，発表し，その発表内容について話し合う学習を設定する。その後，ユニバーサルデザインや話合いによって指摘された点を意識しながら生活する期間を1か月とり，さらに気付いたことや分かったことなどをメモに残すようにする。このことにより，児童がユニバーサルデザインを身近なものとしてとらえることができるようにするとともに，日常生活の中からも広く情報を収集できるようにする。

考えを整理し，提案書を作成する学習

提案書を書く際には，書きためたメモを見てしまうと，その羅列になってしまうことが予想されることから，メモの活用は最小限にし，できるだけそれを見ずに自分の

考えを書くようにする。このことにより、児童が、相手に応じて、適切な情報を取り上げながら、自分の考えを整理していくことができるようにする。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

提案書に対する読み手側からの返事

児童が設定した送り先の相手に対して、提案書に対する回答や意見等をいただけるよう依頼する。その際、簡潔で構わないので、児童の考えや趣旨が伝わったかどうかにも触れてほしい旨を併せて依頼し、児童が読み手の立場から自分の文章を振り返ることができるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 ともに考えるために伝えよう

イ 目標

「多くの人が使えるように」なることを考えて、身近な施設や物に関心をもち、進んで調べたり発表したりしている。 (関心・意欲・態度)

調べたことが友達に分かりやすく伝わるように工夫して発表できる。

(話すこと・聞くこと)

多くの読み手に提案内容が伝わるように必要がある事柄を整理し、組立てを工夫してまとめることができる。 (書くこと)

事象や行為などを表す多様な語句について理解することができる。 (言語事項)

ウ 評価規準及び学習計画

(ア) 評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	言語事項
・身近な施設や物について、「多くの人が使えるようになるように」という観点から、進んで調べたり発表したりしようとしている。(発表,観察)	・調べたことをもとに、自分の考えを分かりやすく発表している。(発表)	・自分の考えを伝えるために、必要な事柄を整理して書いている。 (提案書) ・自分の考えが明確に分かるように組立てを工夫している。(提案書)	・自分の考えを適切に伝えるための語句や相手を意識した語句を考えている。 (発表,提案書)

(イ) 学習計画 (13時間扱い)

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	関	話	書	言
一	1	教材文を読み、学習の見通しを立てる。				
二	2	ユニバーサルデザインの発想をもって、身の回りの施設や物について調べる。				
	3					
	4					
時間外		ユニバーサルデザインを意識して生活する。	/			
三	1	調べたことを発表し、話し合って考えを深める。				
	2					
	3					
	4					
	5					
四	1	教科書の文章例をもとに、提案する相手や方法、形式等について話し合う。				
	2	第三次の話し合いで深まった考えを、提案として分かりやすく文章にまとめる。 (本時)				
	3	友達同士で読み合って意見を交換する。				
	4	よりよい提案となるように加筆や修正をして仕上げる。				

エ 本時の指導

(ア) 目標 第三次の話合いで深めた内容を，提案として分かりやすく文章にまとめることができる。

(イ) 準備・資料

提案書用紙，付せん紙

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（ は評価）
<p>1 学習課題を確認し，本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の考えを分かりやすく伝えよう。</p> </div> <p>2 本時の学習課題について考える。 取材したメモを読む。 情報を整理する。</p> <p>3 自分の考えを伝えるために必要な事柄と語句を考えながら提案書を書く。</p> <p>4 考えた提案書を読む。</p> <p>5 原稿を次の時間に読み合うことを予告する。</p>	<p>確認した学習課題を付せん紙に書き，机上に張り付けておくことで，常に学習課題を意識できるようにする。また，学習後にはノートに張り付け，学習の一連の流れを明確にできるようにする。</p> <p>前時の学習内容を振り返り，本時の学習を確認することで，見通しをもって自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>取材メモと第三次で修正した原稿を確認することで，よりよい提案書にするための工夫点を明確にするとともに，書きたいという思いをふくらませることができるようにする。</p> <p>提案書を書く際には，メモの羅列のみになってしまったり，自分の考えが形式的になってしまったりしないよう，できるだけメモを見ないで書くよう助言する。</p> <p>第三次に発表したこと，生活の中で見たことや考えたことなどを思い出しながら，再度提案書としてまとめ直すことで，自分の考えを中心とした提案書になるようにする。</p> <p>自分の考えを伝えるために必要な事柄を整理して，提案書を書くことができる。</p> <p style="text-align: right;">（提案書，観察）</p> <p>なかなか書くことができない児童に対しては，第三次の発表用原稿を参考にし，それをもとに書くよう助言する。</p> <p>書き終わった生徒に対しては，自分の提案書を見直し，自分の考えが明確に書かれているか，自分の考えを伝えるための適切な事柄や例を取り上げているかを見直すよう助言する。</p> <p>自分が書いた提案書を読み返すことで，相手に伝えるための適切な語句や例示について再度検討できるようにする。</p> <p>相互に読み合うことで，友達の考えや表現方法を自分の提案書の中に取り入れることができるようにする。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

提案書の作成

提案書を書くということをもつたこととして、児童は見通しをもつとともに、長時間の書く活動にも集中して取り組むことができた。また、提案書を送る相手を事前に設定したことで、その相手に合った語句や表現、自分の考えを分かってもらうための文の組立てや必要な事柄などを十分に考えることができた。さらに、自分から進んで辞書を活用したり友達に聞いたりするなどして、よりよい文章表現や適切な語句を十分に検討しようとする姿が多く見られた。しかし、相手を意識するあまり、使用する語句や表現にこだわりすぎてしまい、自分の考えをなかなか述べられない児童もいたことから、相手意識のもたせ方や推敲の仕方の指導等については、今後の課題であると考えている。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

書くことの習慣化を図る手立て

日常の出来事などを継続して書き残す活動

当初、書くことに多くの時間を費やす児童の姿が往々にして見られたが、書く回数を重ねるごとに、課題に対する自分の考えを端的に書くことができるようになってきた。それは、自分の考えを述べた上で根拠となるものを述べる、根拠を示しながら自分の考えを述べるなどの考えの述べ方を理解したためであると考えている。同時に、短文のみの表現であったり、文のねじれがあったりしたものが、整った長文を書くことができるようになった。また、書く材料はあっても、集中力が途絶えがちな児童が多かったが、本時の学習での約40分間、全員の児童が提案書を書くことに集中して取り組むことができた。得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

ユニバーサルデザインに対する理解を深める学習過程

表1 A児が第二次の 表1 A児が第2次の段階で書いたメモ（概略）

段階で書いたメモ、表2はA児がその後の1か月の生活期間の中で書き足したメモである。第二次の段階では、資料や教科書の内容を羅列しただけのものであったが、1か月間、ユニバーサルデザインを意識して生活したことで、身の回りにある施設やそこに備え付けられている物等が具体的に取り上げられていたり、「階段の段差はできるだけなくした方がよい。」などの自分の考えが付け

身の回りの施設や物について考える。よりよい提案をする。ユニバーサルデザインとは、改造や特別な設計を必要としない形で最初からすべての人が利用しやすいく設計が利用しやすいく設計すること。ノンステップバスのためのやさしいバス「水飲み場」の高さが低い二段階、あるいは三段階設置されている水飲み場。考「公衆電話」・公衆電話でも、低いところであれば小さい子供でも利用でき

表2 A児が1か月の生活期間の中で書いたメモ（概略）

「友達の考え」・缶のふたに点字がある。・背の高さにあった持ち手の部分（ドアの引き手）提案・いろいろな知識が増えることで問題意識が高まった。・ユニバーサルデザインの七つの原則・友部駅では、エスカレーターがあるしエレベーターもある。・駅は段差がないが周辺は段差が多く危ない。・階段の段差などは、できるだけなくした方がよい。

加えられたりしている。また、自分の考えを書いた以降には、メモの内容が自分の考えを補うための内容や事実等に統一されてきていることが分かる。他の児童についても同様の傾向が見られ、身の回りの施設や物に目を向けるとともに、多くの情報を収集することができた。しかし、ただ事象を書きとめるだけのメモになってしまったものもあり、今後は自分の考えを述べるための情報の収集という観点での指導を一層充実していくことが大切であると考え。

考えを整理し、提案書を作成する学習

資料1はA児の提案書である。資料1 A児の提案書

「門や階段の段差をなくす必要がある。」という自分の考えを明確にし、表1, 2にあったメモの中から、自分の考えを伝えるために必要と考えるものを取捨選択して用いている。これには、1か月の生活期間において自分の考えや情報が整理され、メモをできるだけ見ずに自分の考えを再構成したことが起因していると考え。他の児童についても、単なる調べたこと

A児の提案書

学校の階段で工夫があったらいいと思います。学校には、車いすの人はいないけれど、足をけがしてしまった人などが上手にのぼれるように、ふつうの階段ではなく、登りやすいちょっとした坂をつくれればいいのではないかと思います。普通の階段も必要だから半分に分けて作ればいいと思います。学校の行事などでも車いすの人たちが見ることだってできると思います。

との羅列ではなく、頭括式や尾括式など文章の構成は様々ではあったが、自分の考えとその理由となる事象等を述べることができおり、得た情報を整理し、自分の考えを明確にして提案書を作成することができたと考え。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

提案書に対する読み手側からの返事

提案書に対する返事をもらった児童からは、「自分の考えを分かってもらえた。」、「提案書を書いてよかった。」などの感想が聞かれ、自分の学習の成果を実感したり、学習したことに対して達成感を感じたりすることができたと考え。

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・書く活動を継続的に取り入れたことで、児童の書くことに対する抵抗感を払しょくし、習慣化を図ることができた。
- ・児童自身の生活との関連を図ったり、考えを深めたりする時間を設定したことで、学習内容を身近な問題としてとらえ、自分の考えを整理することができた。
- ・自分の考えを整理する期間を設定するとともに、メモから離れて自分の考えを再構成したことで、情報を適切に取り上げ自分の考えを明確にすることができた。

イ 今後の課題

文章全体の構成や読み手の関心を喚起する書き出しや効果的な組立てを理解するための学習や筆者の考えや根拠を客観的にとらえ、自分の意見を述べたり文章を再構成したりするなどの読むことと書くこととの関連を図った学習について検討し、授業実践に努めていきたい。

【授業研究2】 小学校第2学年「じょうずにならべて！せつめい名人」

- 時間的な順序，事柄の順序を考え，自分の伝えたいことを適切に表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

教科書教材を用いた順序に気をつけて正しく読み取る学習を踏まえ，自分が伝えたい内容を時間や事柄の順序を意識しながら，文章にまとめて表現するという特設単元である。この単元では，「順序が分かるように」，「語や文の続き方に注意して」に視点を置き，相手に正しく伝えることができるように書くことをねらいとしている。

本学級の児童は，日々の生活の中で何かを説明する場面に遭遇したとき，思いつきで表現したり時間的な順序が前後してしまったりして，内容を相手に正しく伝えられないことが多い。また，複数の事柄を説明する場面においても，ただ羅列するだけにとどまり，順序性を意識して表現できていない児童が多くみられる。

そこで，児童が文章を分かりやすく伝えるためには順序が大切であるということに気付き，さらには，語や文の続き方や一文の長さ，書くべき内容や必要な事柄を整理することを意識して自分の考えを書くことができるようにしたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

異学年児童への紹介文の作成

1年間の学校行事を1年生に紹介するための文章を書くという設定にし，相手や目的を意識して文章を書いたり見直したりすることができるようにする。

また，学習計画では，2段階の目的を設定する。

- ・カードを操作するゲーム的な活動を通して，文や語の並び方について理解を深める。
- ・1年生が読んで分かりやすい紹介文を書く。

これは，低学年の学習意欲を持続させながら，学習のねらいを一つ一つ確実に押さえていくための工夫である。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

得た情報を整理したり再構成したりし，発信する学習

時間や事柄の順序を具体的にとらえられる題材の選定

「はじめに」，「次に」，「それから」，「最後に」の四つの語を提示することで時間的順序への意識を高める。分かりやすく伝えるために，これらの語が必要であることについて理解し，正しく使えるようにする。

教科書教材「たんぼぼ」(東京書籍)では，たんぼぼの一生を時間的順序に沿って述べているが，順序を表す言葉は入っていない。そのため，順序を意識して文章を読んだり書いたりできるように，実際に児童が体験した事柄や，生活経験を容易に想起できるような題材を用いることとする。

文章の組み立てを考える学習

時間や事柄の順序が文章を書く上で大切であることを理解できるようにするために，複数のワークシートを用いて，文章を組み立てる学習を行う。その際，抵抗なく学習を始められるよう，カード並べなどのゲーム的な活動を取り入れるようにする。

伝えたいことを整理する学習

紹介文の題材は、1年生のアンケートをもとに、1年生が教えてほしいと思っている上位五つの中から各自が選択する。そして、行事について思い付いたことを1枚のカード(事柄カード)に書く。このことで、書けない不安を取り除き、自信をもって学習に臨めるようにする。次に、書く順序にカードを並べてワークシートに張り付ける学習を取り入れる。さらに、同じ行事を選択した児童同士で情報交換の時間を設け、カードの見直しや修正が容易にできるようにする。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

単元ノートの作成と1年生からの感想

学習後に、本単元で用いたワークシートをまとめて一冊の単元ノートにし、学習の成果に対する実感が得られるようにするとともに、以降、文章を書くときの手順を確認する手引き的な役割も果たせるようにする。

また、できあがった紹介文を1年生に読んでもらい、感想を書いてもらう。その際、ねらいに即した観点で書いてもらうよう依頼し、読み手の立場から自分の文章を振り返るための手がかりとして用いることができるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 じょうずにならべて！せつめい名人

イ 目標

どんな事柄がどんな順序で書かれているのかについて関心をもち、進んで読んだり書いたりしようとする。 (関心・意欲・態度)

説明したい事柄の順序を考えながら、語や文の続き方に注意して書くことができる。(書くこと)

時間的な順序、事柄の順序などを考えながら、内容を読み取ることができる。(読むこと)

指示語や接続語、時間の経過を表す語の使い方に気付くことができる。(言語事項)

ウ 評価規準及び学習計画

関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語事項
・説明文について、どんな事柄がどんな順序で書かれているかを考えて、進んで読んだり書いたりしようとしている。 (観察・発表・ワークシート)	・分かりやすく伝えるために、説明したい事柄の順序を整理して書いている。 (ワークシート) ・分かりやすく伝えるために、文章の組み立てをふまえて、語や文の続き方を工夫して書いている。 (ワークシート)	・時間的な順序、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取っている。 (観察・発表)	・指示語や接続語の使い方や、題材の配列の仕方など、分かりやすく伝えるための語の使い方を考えている。 (発表・ワークシート)

(イ) 学習計画(7時間扱い)

次	時	学習活動・内容	関	書	読	言
一	1	教材文を読み、学習の見通しを立てる。				
二	1	順序を変えた文章を読み、順序の大切さについて考える。				
	2	バラバラになった絵や文章を時間的順序に従って再構成する。				
	3	順序を表す言葉を正しく理解し、それを適切に用いて文章を書く。				
三	1	自分が伝えたい内容を決め、取り入れたい事柄をカードに書く。				
	2	カードを並べ替え、順序を表す言葉を取り入れて文章を書く。(本時)				
	3	友達同士で読み合っ、修正する。				
事後	*	自分が書いた文章を異学年児童に読んでもらい、それに対して返事をもとに学習の振り返りを行う。				

エ 本時の指導

(ア) 目標 事柄カードを並べ替え、順序を表す言葉を取り入れて、分かりやすく文章にまとめることができる。

(イ) 準備・資料

事柄カード、順序を表す言葉カード、紹介文作成用紙、掲示資料

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（ は評価）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じゅんじょをあらわすことばを入れて、わかりやすい文しょうを書こう。</p> </div> <p>2 前時までの学習を振り返り、順序を表す言葉、つなぎ言葉について確認する。</p> <p>3 伝えたい内容の構成について、時間や事柄の順序を想起しカードを並べ替える。</p> <p>4 並べ替えたカードをもとに、必要な語句を補いながら紹介文を書く。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習課題を知る。</p>	<p>本時は、前時に記入したカードを並べ替えて、文章にまとめる時間であることを確認する。</p> <p>第二次の学習でできるようになったことを計画に示すことで、自信と意欲をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>第二次に学習した文例を提示して確認することで、「はじめに」、「つぎに」、「それから」、「さいごに」の四つの言葉の順序とその効果について想起することができるようにする。</p> <p>事柄の順序を並べる際には、順序を表す語のカードと組み合わせさせて並べるようにする。</p> <p>事柄カードの枚数が多い児童に対しては、書こうとする題材に必要な事柄とそうでない事柄とを区別するよう助言する。</p> <p>項目のみの箇条書きになっているカードを文章形式にするには、どのような言葉を補ったらよいかを考えられるようにする。その際、1年生が読むということを考慮し、難しい語句が使われていないことも確認するよう助言する。</p> <p>時間的な順序、事柄の順序に気を付け、分かりやすい文章を書くことができる。</p> <p style="text-align: right;">（紹介文・観察）</p> <p>なかなか書くことができない児童には、第二次の学習で、順序についてどのようなことに注意して書いていたかを想起するよう助言する。</p> <p>書き終わった児童には、自分の紹介文を読み返し、順序を表す言葉が適切に使われているか、語と語、文と文の続き方が分かりやすいものとなっているか見直すよう助言する。</p> <p>次時は、グループ内で相互の紹介文を読み合うことで、分かりやすい文章の条件や、言葉の使い方について確かめることを伝える。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

異学年児童への紹介文の作成

1年生に学校行事を紹介するための文章を書くという設定にしたことで、児童は相手意識、目的意識を明確にもち、楽しみながら抵抗なく学習に取り組むことができた。

また、書いた文章を読んでもらう相手を下学年にしたことで、文章中に用いる語や文の吟味も十分に行われた。第二次で行った順序を表す言葉についての学習も、「1年生に分かりやすい文章を書けるようになるために」という最終的な目標へと結び付いたため、児童が見通しをもち、意欲を持続させて学習することにつながったと考える。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

時間や事柄の順序を具体的にとらえられる題材の選定

本単元の前に学習した「たんぼぼ」(東京書籍2年上)には、順序を表す言葉は用いられていなかった。しかし、第2学年の「読むこと」、「書くこと」の内容から、時間や事柄の順序を表す言葉を理解し使えるようにすることは重要であり、分かりやすく正しく伝えるためには不可欠のものであると考え、本単元で取り扱うことにした。

資料1は、文を正しい順序に並べ替える学習場面の板書である。掲示物上部にある順序を表す言葉は、並べ替えをしていく中で、児童が発した「最初はこれでしょ。」、「その次は。」、「それから続くのは。」、「それが最後だね。」という言葉を書き出したものである。児童は、並べ替えの学習をしながら発した言葉が、実は文の順序を表すつなぎ言葉であり、文章を分かりやすく構成するために重要なのだということに気付くことができた。

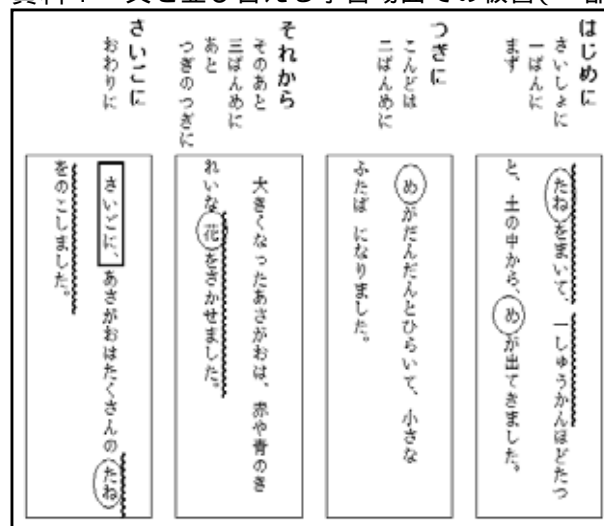
特に、多くの事柄を説明する場合、事柄をただ羅列するだけで、順序性を意識しなかった児童が、順序を表すつなぎ言葉を使うことによって、事柄を整理し、分かりやすい文章を書くことができるようになった。

文章の組み立てを考える学習

低学年児童が「書けない」のは、作文の題材に選んだ自分の体験の記憶を呼び起こせないこと、時間的経過を自分でうまくたどれないことなどが起因していると考え。そこで、今回の学習では、児童の実体験により近く、順序性が想起しやすい題材を選び、順序どおりに文を並べて全体を構成する絵カードやワークシートを取り入れた。また、意図的に順序を変えた文章を用意し、それを音読することで、順序が違ふと意味が分かりにくくなることに気付くことができるようにした。

低学年という発達段階を考え、生活に即した身近な題材を選んだことにより、児童は自分の実体験を想起し、時間や事柄の順序を整理しながら文章を構成することができた。

資料1 文を並び替える学習場面での板書(一部)



伝えたいことを整理する学習

前段階の学習を踏まえて、1年生に学校行事の紹介をする作文を書いた。行事においては、どのような準備をし、どのような経過を経て当日を迎えるのか、順序に従って書くことを条件とした。資料2は、資料2 「事柄カード」を並べたワークシート

自分が伝えたい内容を「事柄カード」に書き、順序にしたがって並べたワークシートである。「事柄カード」は1枚につき1事象とし、思いつくままに書いていく。そして、その中から特に大切な4枚を選び、順序を考え、並べて張っていった。使わなかったカードは裏面に張って残した。この学習は、書くことを選び、整理する上で、効果的であったと考える。

はじめに	つぎに	それから	やいばに
一年生が行きたいはしよをかくにんする。かていかしつ、としよしつなど行きたいばしよが書いてありました。	行くじゆんばんをきめる。とおまわりをしなうから順番に行く。	めあてをきめる。四つぐらいきめる。	リハールとハルと行くけんしゅうをした。

書くじゆんじよにカードをならべてはりつけよう。

段階を踏んだ後に作文を書いたので、順序を表す言葉を正しく使うことができた児童が大半であり、普段作文を完成させるのに非常に時間がかかる児童も、ワークシートを見ながら、自分の伝えたいことを整理して、容易に書くことができた。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

単元ノートの作成と1年生からの感想

本単元で使ったワークシートを「単元ノート」として、まとめて一冊の冊子にした。今後、作文を書く際の手引きとしての機能ももたせることができると考えたからである。

また、完成した紹介文を1年生に読んでもらい、感想をもらった。1年生の感想を読んだ児童からは、「順序よく分かりやすいとほめてもらえてよかった。」、「早く行事をやりたいと思ってもらえてよかった。」などの感想が聞かれた。「お家の人にも読んでもらいたい。」という声もあり、児童は、自分の学習の成果を実感し、書くことへの抵抗を払しょくし、自信をもつことができたと考える。

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・ 下学年児童に紹介文を書くという設定にしたことで、相手意識、目的意識を明確にし、楽しみながら抵抗感なく学習に取り組むことができた。
- ・ 児童の実体験により近い、かつ順序性が想起しやすい題材を選択して書くことで、学習内容を身近なものとしてとらえ、時間や事柄の順序の重要性を考えることができた。
- ・ 事柄カードを用いて、自分の伝えたい事柄を選んで整理したり並べ替えたりする時間を設定したことで、必要な情報を取り出したり、時間や事柄の順序を考えて文章を構成することができた。

イ 課題

順序を表す言葉を生活の中で活用できるようになることが大切である。また、一段落中の文に自分の言葉で付け足しをし、さらに詳しくするなど、話すこと・聞くことの指導との関連も図っていきたい。

【授業研究3】 中学校第2学年「伝えよう私の思い，受けとめようあなたの思い『フォト五七五を書こう』」

- 語感を磨き，語彙を豊かにし，自分の思いを適切に表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

1枚の写真を題材として，その写真から感じ取った様子や雰囲気，自分の思いなどを俳句や川柳にし，その創作した俳句や川柳を写真に書き込み，「フォト五七五」という作品を作成する単元である。この単元では，事象や行為などを表す多様な語句についての関心や理解を深めるとともに，豊かなものの見方や考え方を自分自身の中に形成したり，語感を磨いたりすることをねらいとしている。

本学級の生徒は，全体的に創作活動に対する関心が高く，物語や詩歌などを書きたいという思いもおお盛である。しかし，様子や思いを適切に表す言葉や語句を深く検討せず，一般的な言葉や語句を安易に使用してしまう傾向が見られる。

そこで，生徒が多様な語句についての関心や理解を深めるとともに，自分の思いを適切に伝えるためには，どのような語句が適しているのかを考える学習を通して，生徒の語感を磨き，語彙を豊かにしていきたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

句会の実施と俳句の例示

単元の終末に学級で句会を実施するとともに，学年で「フォト五七五コンクール」を開催するという学習計画を設定する。また，俳句や川柳を例示し，十七音という短い文の中で自分の思いを適切に伝えるためには，一語一語を十分に検討することが大切であることを実感としてとらえられるようにし，必要感をもって学習に取り組むことができるようにする。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

写真と俳句とを結び付ける学習 ～フォトカルタ～

4枚の写真とともに俳句を1句示し，その俳句にある語句の一つ一つを検討しながら，どの写真を詠んだ俳句なのかを考える学習を行う。このことにより，適切な語句を使用することで，様子を適切に言い表すことができたり，逆に様子や思いを適切に表現するためには語句や言葉の十分な検討や多様な語句を理解したりすることが必要であることに気付くことができるようにする。

写真と俳句とを結び付ける学習 ～フォトカルタ～

1枚の写真に対して，その写真の様子をそれぞれ違う視点から詠んでいる俳句や川柳を5句提示し，その中から写真の様子を適切に表現していたり，視点の置きどころがよいと思う作品について意見交換を行う。このことにより，一つの様子を言い表すにしても，多様な視点や語句があることに気付くことができるようにする。

写真に適した一語を考える学習

1枚の写真とともに，その写真を詠んだ俳句から様子を言い表す語句の部分を空欄に

したものを示し、その写真の様子を言い表すために、その空欄にはどのような語句をあてはめることができるのかを、話し合いによって考えていく学習を行う。このことにより、同じ様子や風景をとらえる場合であっても、多様な語句や表現があることに気付くことができるようにする。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

ミニ句会

生徒が創作した作品の中からよいと思う作品を選び、その理由を発表するとともに、その作品の作者から、解説や思いを聞く学習を行う。さらに、俳句・川柳に用いた語句について「なぜ、その語句を用いたのか。」「別な語句はないのか。」などという観点からの意見交換も行い、生徒が一層語句についての理解を深めたり語感を磨いたりできるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 伝えよう私の思い、受けとめようあなたの思い「フォト五七五を書こう」

イ 目標

1枚の写真から感じたことを、豊かな発想で十七音で表現しようとする。

(関心・意欲・態度)

自分の伝えたい思いを明確にして、十七音の短文にまとめることができる。

(書くこと)

様子や気持ちを表す多様な語句について理解し、自分の思いを言い表す適切な語句を
考えることができる。

(言語事項)

ウ 評価規準及び学習の計画

(ア)単元の評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	言語事項
・写真からイメージしたことを、適切な語句を考えながら短い言葉で書こうとしている。 (発表・ワークシート・自己評価表)	・自分で用意した写真や友達の写真からイメージした俳句や川柳を書いている。(作品) ・互いの作品を読み、書き手の言語感覚やものの見方・感じ方について感想を書いている。(発表・作品・ワークシート)	・写真と文章を関連させた表現の効果を理解している。 (作品)

(イ) 学習計画(6時間扱い)

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	関	書	言
一	1	学習計画を作り、見通しをもつ。 写真からイメージしたことをもとに、イメージマップを作成する。			
二	1	自分が選んだ写真をもとに俳句や川柳を書く。			
	2	複数の写真をもとに俳句や川柳を書く。			
	3	作品を読み、様子を表す語句などについて考える。(本時)			
	4	ミニ句会を開き、作品を鑑賞し感想を書く。			
三	1	学年「フォト五七五コンクール」に向けての作品づくりをする。			

エ 本時の指導

(ア) 目標 フォト五七五をもとに、様子などを表す多様な語句を理解することができる。

(イ) 準備・資料

ワークシート，作品，掲示資料

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（ は評価）
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>写真の様子に合った言葉を考えよう。</p> </div> <p>2 様子を表す語句について考える。 俳句が詠んでいる写真を考える。 （フォトカルタ）</p> <p>1枚の写真の様子を詠んだ五つの俳句について考える。 （フォトカルタ）</p> <p>写真の様子に合った語句を考える。</p> <p>3 友達の作品を鑑賞する。 友達の作品を読み，感想を書く。 感想を発表する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り，次時の学習を確認する。</p>	<p>学習計画表をもとに確認し，学習課題を明確にして，学習の見通しをもって取り組めるようにする。</p> <p>フォトカルタを行うに当たっては，写真はカラー印刷をして全生徒に配付するとともに，プロジェクターで投影し，色合いや雰囲気も感じ取れるようにする。</p> <p>生徒の作品及び正岡子規の俳句を鑑賞する。</p> <p>本時において，俳句と写真とをどのように関連付けて考えればよいのかを具体的に理解できるように，4種類の写真と俳句を1句提示し，どの写真を詠んだものなのかを考える学習を行う。また同時に，ミニ句会に向けて作品鑑賞の仕方も理解できるようにする。</p> <p>俳句に表現されている一語一語を検討することで，どの写真なのかを選択することができることを強調し，適切な語句を用いることの必要性に気付くことができるようにする。</p> <p>なぜその写真を選んだのかを，俳句の語句と関連させて述べるようにし，常に俳句の一語一語に着目できるようにする。</p> <p>五つの句と1枚の写真をつなげるゲームをし，書き手によって一つの写真であっても異なったイメージや視点があることに気付くことができるようにする。</p> <p>使う語句によっては写真のイメージにそぐわない場合もあることに触れ，語句を十分に検討することの大切さを再認識できるようにする。</p> <p>たんぼぼを写した写真と「蒲公英の のごとく咲きにけり」という俳句を示し， に入れる語句を考えることで，同じ様子や事象であっても多様な語句があることに気付くようにする。</p> <p>考えた語句を理由を添えて発表し合うことで，様々なイメージや語句があることを理解するとともに，自分の思いを伝えるためには語句を精選することが大切であることに気付くことができるようにする。</p> <p>様子を表す多様な語句を理解することができる。 （発表，ワークシート）</p> <p>なかなか理解できない生徒に対しては，友達が考えた語句を聞いてみるとよいことを助言する。</p> <p>理解を深めた生徒に対しては，身の回りの事象を表す語句を数多く考えてみるよう助言する。</p> <p>グループごとに，それぞれ自作以外の2句を選択し，ワークシートに感想などを書くようにする。また，3色の付せん紙に作品のよさ（青色）や心に残った言葉（黄色），質問したいこと（桃色）を書き，作者に手渡すことで，自分の作品を客観的に評価できるようにする。</p> <p>友達の作品のよさを中心に話し合うよう助言する。</p> <p>次時はミニ句会を開き，その際の講評をもとに学年「フォト五七五コンクール」に向けた作品づくりをすることを確認する。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

句会の実施と俳句の例示

単元の終末に句会を実施することを予告し、学習の目標を明確にするとともに、例示した写真をもとにしたイメージマップづくりを通して、一つの様子を言い表すにしても多様な語句があるということに気付き、学習を始めることができた。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

写真と俳句とを結び付ける学習 ～フォトカルタ～

資料1は、写真の 資料1 フォトカルタ 資料2 フォトカルタ

右に示した俳句はどの写真を詠んだものなのかを考える「フォトカルタ」のワークシートである。「夏のグチ」に着目した生徒は、夏の風景を感じる「イ」と「エ」に注目し、「反応なし」に着目した生徒は、無表情に近い「ア」に注目した。その後、「反応なし」は無表情を指しているのではないとの発言があり、「イ」と「エ」とりわけ表情がよく見て取れる

② 「夏のグチ 犬に言うが 反応なし」

【理由】



①

【理由】



ア 波高く 海のダンスの はじまりだ
イ 砂浜で 立っているのが 涼しそう
ウ 波高く 自分と背だけが おんなじだ
エ 大きな海 人がありに なっっちゃう！
オ 青い海 大きな波が せまりくる

「エ」であろうとの結論に達した。その後、高校球児を詠んだ俳句、また、精選された言葉や語句に触れる上で、正岡子規の俳句を取り上げ話し合いを行った。このことで、生徒は一つの様子を表現するための言葉や語句の大切さに気付くことができた。しかし、示す写真については、季節感や動き等のイメージを膨らませることに困難な点があったことから、ビデオ映像や実際の風景の活用なども検討していく必要があると考える。

写真と俳句とを結び付ける学習 ～フォトカルタ～

資料2は、上部に示した写真を表現するのにどの俳句がよいかを、ア～オの中から選ぶ「フォトカルタ」のワークシートである。これは、一つの風景を詠むにしても様々な視点があることに気付くために用いたものである。「ア」では「波高く」に、「オ」では「大きな波」に着目した上で、この2句の表現は風景にそぐわないことから最初に除外された。「イ」、「ウ」、「エ」については、どれも様子を表した俳句ではあるが、「イ」の「涼しそう」、「ウ」の「自分と」、「エ」の「人が」に着目した上で、「イとエ

は風景を見ている。」、「ウは自分がその波の前にいる。」という視点の違いをとらえた発言を受け、この写真を表現する場合、「ウ」のような俳句をつくりたいという感想が多くの生徒から出た。その後、道路にかがみ込む二人の幼児を写した写真について、幼児ならではの発想を思わせる語句をもとに様々な視点について考えることができた。

写真に適した一語を考える学習

資料3は、写真を見て、にどのような言葉や語句を入れると様子を適切に言い表すことができるかを考え話し合った際のワークシートである。音数にこだわらず語句を考えていったことから、「星」、「あかり」、「こんぺいとう」、「登校班」などの様々な語句が出た。ただ、かわいらしさをイメージした表現に偏りがちであったことから、「『雷』ではどうか。」と投げかけたところ、「おかしい。」という発言があったが、「たんぼぼの強さを表現したい。」



と理由を添えると、その後、「花火」、「電光」などの発言も聞かれるようになった。しかし、の後に「のごとく」という言葉を添えてしまったために、語句が名詞等に限られてしまい、「ふんばるごとく」、「手を取り合って」などのささやきもあったが、そこからの広がりには欠けてしまう面があった。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

ミニ句会

「この言葉が心に響いた」、「この作品のよいところは」、「質問したいこと」という三つの観点から作品を鑑賞した。特に、「この言葉が心に響いた」という観点は、作者である生徒が、十分に吟味した語句を友達が認めてくれたとの思いから、学習の成果を実感したり、達成感をもったりする上で効果的であった。また、その語句を用いた意図を質問することで、鑑賞する側にとっても語句に対する理解を一層深めることができた。

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・写真と俳句を関連付けた学習を設定したことで、生徒が具体的なイメージをもって、多様な語句を検討していくことができた。
- ・1枚の写真を基に視点の違いをとらえる学習を設定したことで、視点の違いにより、様子の言い表し方や用いる語句も違ってくることに気付くことができた。
- ・様子を表す様々な語句について話し合いを行ったことで、多様な語句を理解するとともに、語句を検討することの大切さに気付くことができた。

イ 今後の課題

理解した多様な語句を生活の中で活用していくことが大切である。今後は、日常生活や他教科の学習においても、適切な語句を考え用いるための指導を継続するとともに、生徒がさらに語彙を豊かにできるよう、類義語辞典などを活用するなどの機会を意図的に位置付けた授業実践に努めていきたい。

【授業研究 4】 中学校第 1 学年「視野を広げる」

- 叙述に即して主題を考え、自分の思いや考えを適切に表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

登場人物の心情の変化や主題を読み取り、それに対する自分の考えや思いを一行詩で表現する単元である。この単元では、とらえた内容を表現するために、用いる言葉を精選し、自分の言葉で言い換えていくことができるようにすることをねらいとしている。

本学級の生徒は、文学的文章を読むことを好む傾向にある。そのため、文章を読んで、その内容を読み取る活動に意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、自分の考えや意見を文章にしたり、話したりすることについては、苦手意識をもっている生徒が多い。

そこで、生徒の実態を加味し、登場人物の心情や人間的な成長の跡を読み取ることが比較的容易であり、登場人物の言動に共感したり、自分の考えを深めたりしやすい教材ということを考え、「そこに僕はいた」(東京書籍)を取り上げた。この題材を通して、生徒が書くことに対して意欲的に取り組むとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中の語彙についても関心をもてるようにしたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

登場人物の心情や作品の主題を考える学習

会話を空欄にしたワークシートや場面の状況から、「本文に対する問い」と「問いに対する自分の考え」を明確にしながら、自分の体験や考えを十分にかかわらせることができる学習にする。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

一行詩の作り方や意義についての学習

一行詩による表現の仕方を段階的に示し、作り方の手順を理解できるようにする。また、同じ題材であっても、多様な語句で表現できることに気付くようにする。比喻などの表現技法を使うことで、イメージをふくらませることができることを確認する。

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

読み取った内容を一行詩で表す学習

作品の主題や登場人物の心情など、読み取った内容を題材にし、一行詩で表す学習を行う。一行詩という短い表現方法を用いることで書くことに抵抗感をもつ生徒も、意欲的に取り組むことができ、また、短い表現であるため自分の考えや思いを表す語句を吟味するとともに、適切な表現技法を選択できるようにする。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

一行詩を発表し、解説や思いを聞く学習

作成した一行詩をグループ内で相互に発表し、解説や思いを聞く学習を行う。さらに、一行詩に表した題材をイメージできる適切な語句が使われているかどうかを意識できるようにする。「その語句がもつイメージは。」「別な語句はないのか。」などという観点からの意見交換の場を設定し、生徒の語句についての理解が一層深まるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 視野を広げる

イ 目標

筆者のものの見方や考え方を確かめながら読み，自分のものの見方や考え方を広げようとしている。 (関心・意欲・態度)

伝えたい事実や事柄，自分の考えや気持ちを明確にすることができる。 (書くこと)

文章の展開に即して内容をとらえ，主題を考えることができる。 (読むこと)

事象や行為などを表す多様な語句や文章の中の語彙について理解することができる。

(言語事項)

ウ 評価規準及び学習の計画

(ア)単元の評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語事項
<p>・資料や身近な題材からイメージしたことを適切な言葉で表現しようとしている。 (発表・ワークシート・自己評価表)</p>	<p>・主題や登場人物の心情を一行詩に書き換えている。 (作品)</p> <p>・互いの一行詩を読み合い，表現の仕方やものの見方・感じ方について自分の表現の参考にしている。 (発表・ワークシート)</p>	<p>・文章に表れているものの見方や考え方を理解し，自分のものの見方や考え方を広げている。 (発表・ワークシート)</p>	<p>・事柄や心情などを表す多様な語句について理解し，効果的に表現している。 (発表・ワークシート)</p>

(イ)学習計画(5時間扱い)

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	関	書	読	言
一	1	教材文を読み，学習の見通しを立てる。				
	2	会話文を中心に登場人物の心情を読み取る。				
	3	作品の構成や展開を正確にとらえ，主題をとらえる。				
二	1	主題や登場人物の心情を一行詩で表す。 (本時1/2)				
	2					

エ 本時の指導

(ア) 目標 主題や登場人物の心情について、感じたことや考えたことを明確に表現することができる。

(イ) 準備・資料

本文プリント，ワークシート，掲示資料

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（ は評価）
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主題や「僕」，「あーちゃん」の気持ちを一行詩で表そう。</p> </div> <p>2 表現の仕方について考える。 題材からイメージする語句を考える。</p> <p>イメージした語句を使って一行詩を作る。</p> <p>3 各自で一行詩を書く。</p> <p>4 グループ内で相互に発表し合い，意見交換を行う。 アドバイスをもとに自分の作品を見直す。 各自，完成作品を作る。</p> <p>5 本時の学習を振り返り，次時の学習を確認する。</p>	<p>前時の学習内容を確認し，本時の学習課題を明確にして，見通しをもって取り組めるようにする。</p> <p>主題や登場人物の心情等について振り返り，一行詩の題材を想起できるようにする。</p> <p>一行詩による表現の仕方を段階的に示し，作り方の手順を理解できるようにする。</p> <p>同じ題材からであっても，多様なイメージや語句があることに気付くようにする。</p> <p>比喩などの表現技法を使うことで，イメージをふくらませたり，強調したりすることができることを確認する。</p> <p>一つの題材にこだわらず，様々な題材から多様な語句をイメージできるようにする。</p> <p>比喩などによる言い換えやオノマトペなどについても意識できるようにする。</p> <p>主題や登場人物の心情を題材として，一行詩を書くことができる。</p> <p style="text-align: center;">（ワークシート，観察）</p> <p>題材を決められない生徒には，主題等について振り返るよう助言する。</p> <p>題材からイメージを広げられない生徒には，イメージマップを作成してみるよう助言する。</p> <p>書き終わった生徒には，自分の考えや思いが「こだわりの言葉」によって明確に表現できているか見直すよう助言する。</p> <p>見直しが終わった生徒に対しては，一行詩をつなげて，詩を作るよう助言する。</p> <p>友達の作品のよさを中心に話し合いを行い，さらによいものにするにはという視点でアドバイスするよう助言する。</p> <p>題材からイメージした語句が適切に表現されているかを意識できるようにする。また，より豊かに表現するために，表現技法についても検討するよう助言する。</p> <p>自分のものの見方や考え方について振り返り，次時の学習につながるようにする。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

登場人物の心情や作品の主題を考える学習

資料1は、場面ごとに登場人物の心情を考えるために、会話文を空欄にしたワークシートである。展開に沿って会話を想像していったことで、登場人物の心情を具体的に考えることができた。また、本文中の「謎となる表現」に着目し、「本文に対する問い」と「問いに対する自分の考え」を作成する学習を行い、作品の主題について考える手がかりとした。この学習により、生徒は登場人物の言動に共感したり反発したりしながら、登場人物間の相互理解による友情の深まりや、さらに人間的な成長についても読み取ることができたと考える。

資料1 会話文を空欄にしたワークシート(一部)

本文中の「 」に当てはまる言葉を考えてよ

空欄1「母親の一人の言葉」
あの子と遊んでいて、もし何かあったら君たちの責任になるんだよ。(あの子は体が不自由なんだから一緒に遊ぶときは気を付けるのよ。もしものことがあったら、大変なんだから)

空欄2「心が恥ずかしくて、僕が言
ごめんね。
つた言葉」

空欄3「目をぱちくりさせて答えた。
僕はみんなと違うんだ。」

「僕」と「あーちやん」の気持ちを考えてよ

僕の気持ち
あーちやんと遊
ぶなっ
ていうの？

僕の気持ち
おいていっ
たこ
と、とて
も反省し
てるよ。

僕の気持ち
なぜ、みんなと
違う足があるの？

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

一行詩の作り方や意義についての学習

資料2は、一行詩の作り方について学習した際の板書の一部である。一行詩による表現の仕方を段階的に示し、作り方の手順も理解できるようにした。まず、本文からイメージする語句として「星」を取り上げ、「星」を比喻を使ってどう表現するか検討し、「星は宝石のようだ。」とした。さらに光るイメージから「キラキラ光る空の□」とつなげ、「キラキラ光る」ものから「命」を連想した生徒の発言で、「キラキラ光る空の命」となった。その後、「青春」、「父」、「母」、「友」、「授業」を題材とした一行詩の例を提示し、比喻などの表現技法を使うことで、イメージを

資料2 一行詩の作り方の学習の板書(一部)

「星」
「青春」
「父」
「母」
「友」
「授業」

「星」は 宝石 かがやく光 のようだ

「星」 キラキラ光る空の 命

「青春」 青春は 自転車で走る

「父」 夕飯ぐらい一緒に食べよ！ 忙しいのは分かるけど……

「母」 やった 試合で負けても弁当で勝った！

「友」 お前がいないと なんだか 調子出ないんだよね！

「授業」 もう大変(うんざり)です。 擬態語 5時間目！

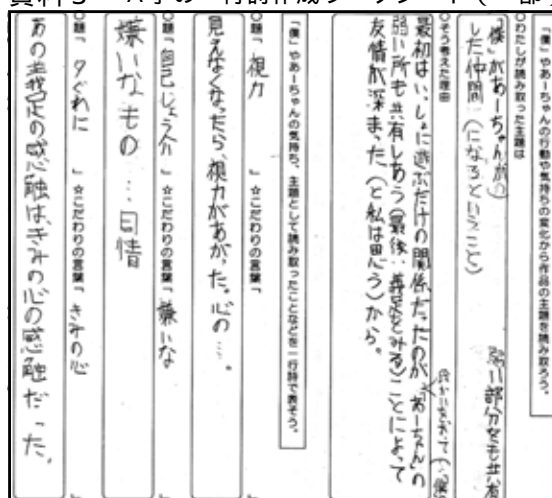
ふくらませることができることを確認した。しかし、生徒は、この学習から比喻や倒置法などの表現技法やオノマトペなどに対する意識を強めてしまったことから、多様な語句を意識できる学習を検討する必要があると考える。

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

読み取った内容を一行詩で表す学習

資料3は、作品の主題や登場人物の心情など、読み取った内容を題材にし、一行詩で表す学習の際に用いたワークシートである。主題や登場人物の心情等について振り返り、一行詩の題材を想起できるようにした。この学習を通して、生徒は、読み取った内容について再度考え、また、自分の表現が、自分の考えや思いを表すものとして適切かどうか

かを考えることができた。しかし、自分の考えや思いを適切に表現するための言葉については、十分に吟味したとはいえ、今後資料3 A子の一行詩作成ワークシート(一部)の課題であると考え。生徒の感想では、「一行詩に使う言葉選びが難しかった。」「ぴったり合う表現が見つからなかった。」など、表現することの難しさを挙げる生徒が多かったが、その反面、初めて行った一行詩作りについては、「難しかったけど、おもしろかった。」などの感想も見られた。短い言葉で表現することを通して、文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分なりに表現の言い換えをすることができた結果であると考え。

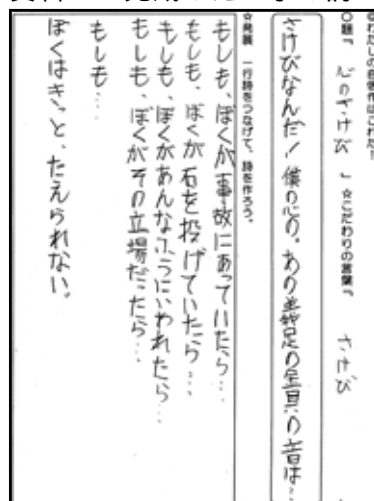


ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

一行詩を発表し、解説や思いを聞く学習

自分が作成した一行詩をグループ内で発表し、自分の思いがうまく伝わるか、相互に検討した。「登場人物の気持ちになりきったほうがいいよ。」「もっと具体的な方が分かりやすいよ。」「倒置法を使えば。」など一行詩の作成についてのアドバイスが活発に行われた。また、生徒の感想では、「たくさんの人の一行詩を聞いてよかった。」「友達の一詩を参考にできた。」等の記述があり、相互の鑑賞を自分の表現の参考にしたり、推敲に役立てたりすることができた。しかし、前述の通り、生徒の意識が表現技法などに偏ってしまったことから、鑑賞の観点を明確に示し、語句に対して吟味する意識をより高める必要があると考え。

資料4 完成したA子の詩



(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・一行詩という短い表現方法を用いたことで、生徒の書くことへの抵抗感を軽減するとともに、表現活動への意欲を高めることができた。
- ・自分が読み取ったことを、適切な語句を吟味しながら書き換える学習を行ったことで、文章に表れているものの見方や考え方を一層深く理解するとともに、自分の考えを深めることができた。
- ・相互に鑑賞し合い、題材からイメージした語句が適切に表現されているかを検討したことで、様々な語句や表現を自分の表現に生かすことができた。

イ 今後の課題

今後は、継続して言葉を吟味して表現する機会を意図的に設けるとともに、「対象から何かを発見する力」や「自分なりに表現する力」を高められるよう、「読むこと」と「書くこと」を関連させた授業実践に努めていきたい。

【授業研究 5】 高等学校第 2 学年現代文「地震災害への意見文を通じて過去・現在・未来をつなぐ」

- 情報を収集して整理し、自分の意見を進んで表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

地震というテーマに基づいて、情報を収集して整理し、地震災害の現状や課題を示しながら、今後の対策について自分の意見を表現する単元である。この単元では、情報を単に収集し羅列するのではなく、必要な情報を適切に収集するとともに、自分の意見を述べるためにその情報の形や内容を整理した上で表現することをねらいとしている。

本学級の生徒は、目的や課題に応じてインターネット等の情報通信ネットワークを活用して、情報を検索したり収集したりすることには慣れている。しかし、その情報をもとに意見や報告をまとめる際には、収集した情報の中から必要なものを取捨選択したり、内容を十分に考察したりせず、安易に羅列しがちな傾向がある。

そこで、生徒が、収集した情報の中から必要なものを取り上げ、その情報をもとに自分の意見の視点を明確にして、意見と情報とを再構成して表現できるようにしたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

「方丈記（元暦の大地震）」と「新聞社説」の比較読み

第 1 学年での「方丈記」（第一学習社）の学習を踏まえ、過去に起きた大地震の様子を記した「方丈記（元暦の大地震）」（新潮日本古典集成）と 2007 年 7 月に発生した中越沖地震についての「新聞社説」（朝日新聞 H19.7.17）との比較読みを通して、過去と現在との大地震の類似点や相違点について考える。このことにより、現代に至るまで変わらぬ災害を引き起こしてきた地震に関心をもち、現在の問題点を探るといった目的をもって学習に取り組むことができるようにする。

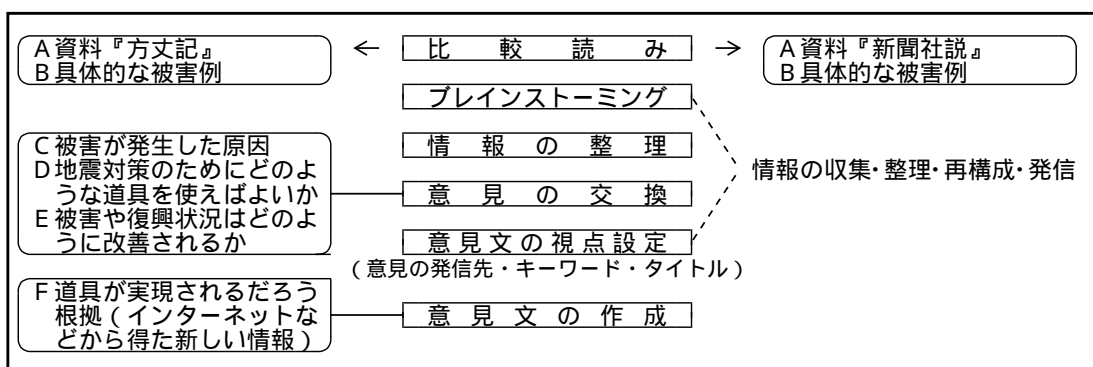
イ 自分の考えを適切に表現するための学習の工夫

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

構成を整理するワークシートを活用した学習

収集した情報や自分の意見、また意見を述べる際の構成を整理することができるワークシートを作成し、活用する。このことにより、必要な情報とそうでないものを視覚的にとらえ、自分の意見を述べるための文章構成を容易に考えられるようにする。

資料 1 単元の流れ (A～F は情報を整理するためのワークシートの項目)



自分の意見の焦点化を図る意見交換

「方丈記」の中の、建物が倒壊し、塀の下敷きになって子が亡くなった例から、この地震は震度6の被害にあたるという事実をグループで確認した上で、比較読みに入る。知り得た地震の被害例やいまだに解決できない課題、現在の問題点、また自分が考える対策などについてブレインストーミングする意見交換の場を設定する。自由な意見交換をすることで、地震に対する理解を深めるとともに、自分が取り上げたい課題や自分の意見について一層焦点化を図ることができるようにする。

インターネット等から情報を収集する学習

自分が取り上げたい課題や自分の意見の焦点化を図った上で、さらに説得力がある意見をもてるよう必要な情報をインターネット等から収集する。地震にかかわる情報を無作為に収集するのではなく、自分の意見を述べるための適切な情報という視点に立って情報を収集できるようにするためである。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

生徒相互での読み合いと相互評価

生徒それぞれが書いた意見を相互に読み合い、文章の構成や内容、説得力などについての相互評価を行う。このことにより、自分が学習した内容や成果を実感としてとらえることができるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 地震災害への意見文を通じて過去・現在・未来をつなぐ

イ 目標

情報を整理し、自分の意見をまとめようとしようとしている。(関心・意欲・態度)

根拠を明らかにしながら、自分の意見をまとめることができる。(書く能力)

相手に分かりやすく伝えるための語句や構成を理解することができる。(知識・理解)

ウ 評価規準及び学習の計画

(ア) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
・課題に応じた情報を収集し、整理したり取捨選択したりしようとしている。(ワークシート) ・自分の意見を明確にしようとしている。(ワークシート・観察)	・収集した情報を整理し、適切な情報を取り上げながら自分の意見の視点をもっている。 ・自分の意見を根拠を明らかにして述べている。(ワークシート・意見文)	・自分の意見を述べるための適切な語句や分かりやすい構成を理解している。(ワークシート・意見文)

(イ) 学習計画(7時間扱い)

次	時	学習活動・内容	関	書	知
一	1	「方丈記『元歴の大地震』」をグループで訳し、災害の状況を読み取る。			
	2				
	3	中越沖地震について書かれた新聞社説を読み 地震の被害について知る。			
	4	「方丈記」と「新聞社説」との比較読みをする。			
二	1	読み取った内容や意見について、ブレインストーミングを行う。(本時)			
	2	意見文に取り上げる情報や構成を検討し、意見文を作成する。			
三	1	意見文を作成する。 生徒相互で読み合い、相互評価を行う。			

エ 本時の指導

(ア) 目標 意見交換を通して、収集した情報を整理し、自分の意見を明確にできる。

(イ) 準備・資料

「方丈記『元暦の大地震』」、「新聞社説（朝日新聞 2007.7.17）」、ワークシート

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導及び支援・評価（ は評価）
<p>1 学習課題を確認し、本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>二つの地震をもとにブレインストーミングをし、自分の意見文の視点を明確にしよう。</p> </div> <p>2 「方丈記」と「新聞社説」に書かれた具体的な被害や自分の意見について、グループでブレインストーミングをする。</p> <p>3 意見交換で出た新たな事実や意見をワークシートにまとめる。</p> <p>4 次時の学習課題を確認する。</p>	<p>第一次1～3時までに確認した内容を板書し、過去の地震と現在の地震の類似点や相違点を再度確認できるようにする。</p> <p>本時は、取り上げたい課題や自分の意見文の視点を明確にしていくことが目的であることを助言し、明確な方向性をもって意見交換ができるようにする。</p> <p>地震発生時に、どのような被害が起こることが問題なのかを具体的に考えることで、その対策についての自分の意見の焦点化を図ることができるようにする。</p> <p>グループでのブレインストーミング後、元暦の大地震と中越沖地震の類似点や相違点について新たに知った事実や生徒それぞれの意見を発表し、情報の共有化を図る。</p> <p>地震に対する理解を深め、書きたい内容を明確にできたか。（ワークシート、観察）</p> <p>自分の意見文の視点を焦点化できない生徒に対しては、過去と現在の地震の類似点に注目し、地震の被害を最小限に抑えるためにどのような対策が必要かを考えてみるとよいことを助言する。</p> <p>取り上げたい課題や自分の意見文の視点を明確にできた生徒に対しては、どのような構成でそれを述べると分かりやすいのかを考えてみるよう助言する。</p> <p>さらに、被害防止や復興の改善のために有効な道具や技術について意見交換を行い、次時からの意見を書く際の参考にできるようにする。</p> <p>次時の学習内容や意見文の作成方法などを確認し、生徒が事前に計画を立てられるようにする。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

「方丈記（元暦の大地震）」と「新聞社説」の比較読み

資料2は、抽出生徒が「方丈記（元暦の大地震）」と「新聞社説」の比較読みから類似点と相違点を箇条書きにしたメモである。建物の被害状況等の類似点とともに、原子力発電所や電気、ガス等の現在の新たな課題を見付け出している。さらに、本生徒は地震の際に大切な対策として、「建物崩壊」に着目するなど、比較読みを通して、自分の意見をまとめるための視点

資料2 抽出生徒のメモ

方丈記	新聞社説
<ul style="list-style-type: none"> ・震度6強 ・震源 滋賀 ・木造建築倒壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6強 ・震源 新潟 ・古い木造建築倒壊 ・エコノミークラス症候群 ・原発の火事 ・放射能を含んだ水が漏れる ・電気、ガス、水道が広範囲で止まる

や課題を明確にすることができた。他の生徒も、同様に類似点や相違点から取り上げたい課題や視点を明確にすることができたことから、比較読みは効果的であったと考える。

イ 自分の考えを適切に表現するための学習の工夫

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

構成を整理するワークシートを活用した学習、自分の意見の焦点化を図る意見交換
インターネット等から情報を収集する学習

資料3 抽出生徒のワークシートの記載内容

資料3は、グループでの意見交換後の抽出生徒のワークシートの記載内容である。本生徒は、比較読みの段階から「建物の倒壊」に着目しており、資料4のグループでの意見交換を通して、単なる「建物の倒壊」への関心から、「建物の下敷きになった人の救出」へと自分が取り上げたい課題を

A 地震被害例の載る資料	方丈記 新聞社説 その他	方丈記 新聞社説 その他	方丈記 新聞社説 その他
B 具体的な地震の被害例	家などの倒壊・建物倒壊	原子炉の火事	道路が寸断、建物が崩れた
C 被害が発生した原因	地震による揺れ、建物の強度が弱い	想定を大幅に上回る揺れが観測されたこと	耐震強度不足
D 地震対策のためどのような道具や技術を使えばよいか	倒壊した建物の下敷きになった人の救出・探索	人工衛星による調査などから危険地域を調べ、警戒地域には建てない。万全に万全を尽くす	地震予知器
E 被害や復興状況はどのように改善されるか	助かる人多くなる・復興が早くなる	二次災害や住民の不安をなくすることができる	前もって準備ができるため、被害を最小限に抑えられる
F 対策の道具・技術が実現されるだろうか	ネットで調べた救助ロボットの具体例		予知器は今現在あるらしい

明確にした。さらに、自分が取り上げたい課題を踏まえ、インターネット等での情報収集を行ったことで、救助ロボットについての例を取り上げるなど自分が意見を述べる際に必要な具体的な情報を適切に収集することができた。資料5は、本生徒が記載したBからFを

資料4 グループでの意見交換での主な発言内容

<ul style="list-style-type: none"> ・地震そのものはいつの時代も全然なくならないし、あるところでは何度も地震があるみたいだ。 ・山崩れなど自然に対する災害や<u>建築物への被害は過去も現在も変わらない</u>。 ・原発の放射能漏れなど、現代では逆に過去になかった新たな被害が出ている。 ・今年(2007年)10月から地震予測が始まるとCMで言っていたが、3秒前では何もできない。 ・<u>死んじゃった子(「方丈記」)がかわいそう。両親の悲しみは現在でも変わらないと思う。今回も掘の下敷きになった人がいて、同じだと思う。</u> ・昔はどこに避難していたのだろう。今は体育館に避難したりして、エコノミー症候群になってしまったりしている。 ・今回の新潟は高層ビルがないところでの地震だったが、東京やこのへん(茨城)であつたらどうなるのか考えると怖い。

再構成した意見文である。「方丈記」と「新聞社説」の比較読みをもとに着目した「B」の部分の問題提起とし、続いて意見交換によって新たに知ったことを含めた「C」と「D」を整理し問題点を指摘し、「E」の意見へとつなげた。さらに最後に、「E」の意見の根拠とするためにインターネットから収集した情報である「F」を付け加え、「今、地震が起きた時のことを考えるべきだ。」との意見へと結び付けた。他の生徒についても同様に意見をまとめていったことから、グループでの意見交換と本ワークシートの活用は、自分の意見を整理し再構成する上で効果的であったと考える。しかし、意見交換の際のそれぞれの発言の羅列だけになってしまった生徒もいたことから、今後は、さらに意見交換の目的を明確に意識できるようにすることが必要であると考え。

資料5 抽出生徒が書いた意見文

資料内のB～Fは、ワークシートの項目B～Fに対応

「十年後より今」	<p>二〇〇七年、新潟県中越沖地震が起こった。新潟県柏崎市などでは住宅が数多く倒れた。お年寄りや幼い子供などが下敷きになり亡くなった。中には瓦礫の下に生き埋めになったが、幸い生きのびていたものの救助がとれたために亡くなってしまうというケースがあった。</p>	B
<p>近年、建物は耐震強度が増し、地震に強くなっている。さらに地震予知装置・地震連絡機などの開発が進んでいて十年後には正確な地震対策が可能になると言われている。しかし、今の十年をたえぬく事が可能なのだろうか？もし十年以内に東京や都市部で新潟県中越沖地震なみの地震が起きた場合どうなるだろうか？人口が集中しているため、大パニックになる可能性が高い。そして高い建造物は倒壊の恐れがある。つまり東京で大地震が起きれば大きな被害になる可能性は高い。</p>	D	
<p>だから、今の日本は、まず、地震直後の救助について考えるべきだと思ふ。今の日本の救助機械の開発はすばらしく、小さい隙間に入りこむスネーク型の救助ロボットや重い瓦礫を動かす2本の腕を持つ人型ロボットなどが開発されているのだ。今の日本は十年後や未来の事を考えるより、今、もし地震が起きた時の救助活動について考えるべきだと思ふ。</p>	E	
<p>意見</p>	F	

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

生徒相互の読み合いと相互評価

生徒相互にそれぞれの意見文を読み合う中で、「言いたいことがよく分かる。」、「根拠がしっかりと書かれていてよい。」、「新たな対策などが分かっておもしろかった。」などの発言が聞かれ、生徒は学習した成果を実感できたと考える。しかし、文章の内容や構成から離れた単なる感想のみの発言も見られたことから、今後、相互評価を行う際には、「何について発言すればよいのか」などの学習のねらいに即した観点を明記し、生徒が具体的かつ効果的な相互評価を行える学習を検討する必要があると考える。

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・「方丈記」と「新聞社説」との比較読みを行ったことで、地震に対する関心を高めるとともに、自分の視点や取り上げたい課題を明確にすることができた。
- ・意見交換等を通して自分の意見を整理した上で、インターネット等による情報収集を行ったことで、自分の意見を述べるために必要な情報を収集することができた。
- ・自分の意見や事実等を整理できるワークシートを作成、活用したことで、自分の意見を再構成し、構成の整った文章を書くことができた。

イ 今後の課題

叙述の展開の仕方や文の長短などを含めた様々な文章構成や使用する適切な語句など、生徒がさらに自分の意見を効果的に伝えるための方法を理解し、自分の表現活動に生かしていくことができるようにする学習指導について検討し、授業の実践に努めていきたい。

【授業研究 6】 高等学校第 3 学年現代文「遺伝情報から解放される生き方の模索」

- 筆者が掲げる問題提起に対する自分の主張を適切に表現するための学習指導の在り方 -

(1) 授業研究のねらい

「遺伝子解読の不安」(桐原書店)を読み、筆者の問題提起と主張とを理解するとともに、読み手を納得させるために問題提起と主張との間をどのような論理の展開でつないでいるのかを考察する。その後、筆者と同様の問題提起を冒頭に位置付け、筆者とは別の観点から情報を収集し、根拠を明らかにした上で、筆者の論理の展開を用いて自分の主張を立論する小論文を書く単元である。この単元では、必要な情報を選択し、それらを再構成できるようにするとともに、論文の構成を理解できるようにすることをねらいとしている。

本学級の生徒は、論説文や小説などの文章を読むことには慣れている。しかし、自分の主張を立論する文章を書くことについては、主張に合致しない根拠になってしまったり、説得力に欠ける根拠になってしまったりしがちである。

そこで、生徒が、収集した情報をもとに根拠を明らかにした上で、自分の主張を立論できる一貫性のある文章を書くことができるようにしたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的手立て

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

筆者と同様の問題提起からの自分の主張の立論

筆者が掲げた問題提起について、筆者とは別の観点から根拠を挙げ、筆者と同様の論理の展開で自分の主張を表現していく学習を設定する。このことで、必要感をもって「遺伝子解読の不安」を読めるようにするとともに、説得力のある小論文の書き方を身に付けるという目的をもって学習に取り組むことができるようにする。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

本文の構成をワークシートに整理する学習

本文の構成と筆者が掲げている根拠とを整理して記入するワークシートを作成、活用し、筆者の論理の展開や内容を具体的にとらえた上で、自分の小論文に生かすことができるようにする。

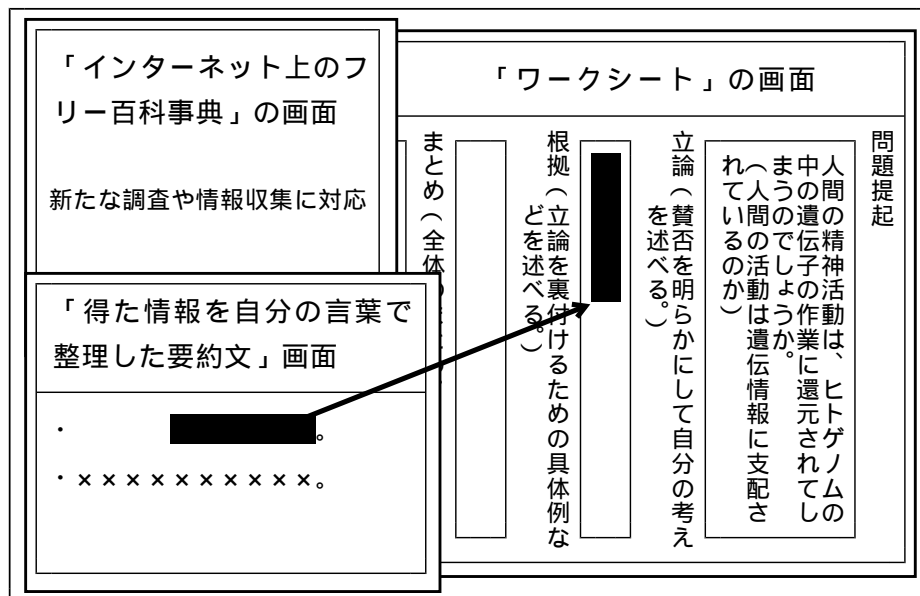
根拠となる情報を収集し整理する学習

筆者が掲げている根拠に対し、「自分ならば」という観点から、筆者とは違った根拠を考える学習を設定する。根拠を考えるにあたっては、視点があいまいになってしまったり、情報収集のための資料が煩雑になってしまったりしがちである。そこで、根拠とするのは、筆者が根拠とした学問領域とは別の「学問領域」とすること、情報収集には、インターネット上のフリー百科事典のみを使用することを条件とする。

情報の整理と再収集、原稿の作成をコンピュータ上で同時に行う学習

「インターネットから収集した情報を100字程度で要約したもの」、「フリー百科事典の画面」、「本文の構成と根拠とを整理する際に用いたものと同様のワークシート(ワープロソフト)」の三つを、資料1のように、コンピュータの画面上に並べた状態で自分の考えをまとめるようにする。このことにより、要約した文章の必要な箇所をワーク

シート上に容易に複製したり、新たに調査や収集をしなければならない情報をすぐに手に入れられるようにする。また、コンピュータ上に直接入力していくことで単元の終末における相互



評価の際に、完成したものを複数の生徒に一齐に配信できるようにする。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

小論文の相互評価 資料2 相互評価シート

生徒相互で完成した小論文を読み合い、資料2にある相互評価シートを用いて、本単元のねらいに関連する五

主張は明確か	A	B	C
説得力はあるか	A	B	C
独自の意見が書かれているか	A	B	C
字は丁寧で読みやすいか	A	B	C
誤字・脱字	()箇所		

つの評価項目について相互評価を行い、自分の小論文の完成度を読み手の立場から客観的に振り返ることができるようにする。また、さらに改善するとよい点などについて意見交換を行い、自分の小論文がよりよいものになっていくことを実感できるようにする。

(3) 授業の実践

ア 単元名 小論文を書こう「遺伝情報から解放される生き方の模索」

イ 目標

自分の特徴や個性を見つめ直し、遺伝子解読が自分の在り方に及ぼす影響について考えようとする。 (関心・意欲・態度)

必要な情報を収集、要約した上で、根拠を明確にした説得力のある小論文を書くことができる。 (書くこと)

小論文の構造や形式、表現に適した言葉を理解することができる。 (知識・理解)

ウ 評価規準及び学習計画

(ア) 評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	知識・理解
・読み取ったことをもとに、遺伝子解読の観点から意見をまとめようとしている。 (ワークシート・観察)	・主張に必要な情報を収集し、自分の言葉で要約している。 (ワークシート) ・主張の部分と一貫した根拠を明確にした文章を書いている。 (小論文)	・小論文としてふさわしい言葉を考え、選択している。 (ワークシート・小論文) ・小論文を書くのに必要な考察の型や文章展開の型を理解している。 (ワークシート・小論文)

(イ) 学習計画 (7時間扱い)

次	時	学習活動・内容	関	書	知
一	1	「遺伝」について知っていることを挙げ、「遺伝子解読の不安」という題名から想像できる内容を列挙し、主題を考える。 第1段落を読み、提起されている「問題」と筆者の「主張」とらえる。			
	2	第2段落を読み、論理の展開をとらえる。			
	3	第3, 4段落を読み、論理の展開をとらえる。			
二	1	自分が志望する学問領域を核として、筆者の主張に反論できないかどうかを考える。 根拠となる情報を収集し、自分の言葉で要約する。			
	2				
	3	自分の小論文の根拠となる部分を考え、整理する。(本時)			
	4	600字の小論文を作成する。			

エ 本時の指導

(ア) 目標 前時にまとめた「学問領域」の要約をもとに、根拠となる部分を整理し、「立論ワークシート」を完成させることができる。

(イ) 準備・資料

立論ワークシート (筆者の論理の展開を整理したもの)、立論ワークシート (自分の根拠を整理していくもの)、根拠となる情報の要約文、コンピュータ

(ウ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点, 評価 (は評価)
1 コンピュータを立ち上げ, 各自のデータ(100字要約文)を開く。	サーバにアクセスし, 予め設定したフォルダから自分のファイルを探して, コンピュータに取り込む。
2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自分の主張を説明するための根拠を整理しよう。</div>	「立論ワークシート」をサーバから生徒の端末へ一斉送信する。 筆者の結論の裏付けとなる根拠を確認し, 論理の展開や書き方などを参考に, 自分の文章を書くことができるようにする。
3 「立論ワークシート」の「根拠」を完成させるための視点を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;">各自の「立論」(志望する学問領域)にどのような特徴があれば遺伝に支配されていないことが証明できるか。</div>	「外部」, 「社会的」, 「後天的」という言葉を用いるとまとめやすいことを助言する。 「問題提起」と「主張」(「遺伝情報から解放されているという結論」)をつなぐ文章を考えることを再確認し, 一貫した文章を書くことができるようにする。
4 根拠となるものを文章化する。	要約した文を整理し, 「立論ワークシート」に根拠をまとめることができたか。(ワークシート) イメージがわからない生徒に対しては, ヒントシートを用意し, 配布する。 ・「岩井克人立論ワークシート」 ・「心理学見本」
5 文章化した根拠を生徒相互で読み合い, 相互評価する。	終わってしまった生徒に対しては, さらに小論文に適した言葉や表現がないかを考えるよう助言する。 相互評価を行うことで, 自分の書いた文章を読み手の立場から客観的に見ることができるようにする。
6 本時でまとめた「立論ワークシート」をデータで提出する。	さらに改善するとよい点などについて意見交換をし, 次時で小論文を書く際の参考にできるようにする。 必要事項を入力し, サーバへ保存する。

(4) 授業の分析と考察

ア 学習の目的や見通しをもつための工夫

筆者と同様の問題提起からの自分の主張の立論

主張を裏付けるための筆者の論理の展開を参考にするとともに、筆者と同様の問題提起から小論文を書く学習を設定したことで、生徒は、「何について」、「どのように」書けばよいのかを明確にして学習に取り組むことができた。また、自分が志望する学問領域を根拠の部分に据えたことから、生徒は興味をもって学習に取り組むことができた。

イ 自分の考えを適切に表現するための工夫

得た情報を整理したり再構成したりし、発信する学習

本文の構成をワークシートに整理する学習

資料3のように、本文の構成を視覚的にとらえるとともに、筆者が根拠としている事実とその述べ方を整理したことで、筆者の論理の展開を具体的にとらえることができた。

資料3 立論ワークシート (本文の構成と筆者の根拠とを整理したもの)

<p>以上から解放されている、ということが言える。</p>	<p>まとめ 社会的生物として「自由」を手に入れる</p>	<p>根拠 「言語」「法」「貨幣」 ：外部から与えられたもの (後天的)</p>	<p>立論 ・言語を媒介として集団を形成 ：同じ言語を話すことで集団をつくる ・法を媒介として共同体を形成 ：法に従うことで、皆が共存できる ・貨幣を媒介として交換関係を形成 ：貨幣を使用することで、必要なものを必要なだけ手に入れることができる</p>	<p>問題提起 立論ワークシート(岩井克人の場合) 「人間の経済活動・精神活動は、ヒトゲノムの中の遺伝子の作用に還元されてしまうのか」 (遺伝情報により人間の人生は決定づけられるのか)</p>
-------------------------------	-----------------------------------	--	--	--

根拠となる情報を収集し整理する学習

根拠にかかわる情報収集の視点や方法

を焦点化したことで、生徒は、一貫した方向性をもって、情報を収集することができた。しかし、収集した情報を整理し、要約する段階においては、学習を円滑に進めることができない生徒もいたことから、資料4の要約するための見本(心理学)を示した。これにより、生徒は、自分が収集した学問分野についての要約を完成させることができた。

資料4 要約するための見本(心理学)

放る神 りう流さ拠こい っくに育用 響報とい感
 さも活以所外れ-、おむつてしては、例をからてて覚心理
 れの動上部のの-、とてて、え受かてのい知理
 てではのしのは、-、こ、備い、人間、ば、解不では、る、
 いあ生こて環、は、-、自、嬉し、さ、呼、は、れ、た、
 り、後、ら、。培、わ、れ、た、精、神、活、動、と、涙、が、
 と、育、つ、ら、。人、間、の、感、情、及、び、
 言、伝、た、情、環、境、の、中、で、支、配、が、
 う、つ、こ、情、環、境、の、中、で、支、配、が、
 が、報、境、の、中、で、支、配、が、
 できる。配、から、解、

情報の整理と再収集，原稿の作成をコンピュータ上で同時に行う学習

要約した文章の必要な部分をすぐにワー 資料5 生徒が整理した根拠

クシートに複写できたり，新たに必要と考
える情報を適宜調査，収集できたりしたこ
とから，生徒からは，「時間が短縮できて
よい。」，「打ち間違いがなくてよい。」な
どの声が聞かれ，生徒は学習を効率よく進
めることができた。また，単元の終末で小
論文を作成する際にも，保存した文書をそ
のまま活用できたり，容易に推こうできたり
した。資料5は，資料3と同じ形式のワ

立論（法学）
「法学」とは正しいことと正しくな
いことを知ることであり、「司法」
とは具体的な争訟について、法を適
用し、宣言することにより、これを
裁定する国家作用である。
根拠
人は外部から与えられた「法」によ
って律されることで、きまりを守る
ということをもつて覚え、善悪
を知る。そしてその中で自由を見出
す。そこで見出された自由は単一の
ものではなく、各々異なっているは
ずだ。

ークシートに生徒が整理したものの中から 根拠にかかわる部分を抜粋したものである。

ウ 児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

小論文の相互評価

完成した小論文を読み合い，資料2にある相互評価シートを用いて相互評価を行った
ことで，「自分の小論文が説得力があるものかが分かった。」，「友達の意見を聞
いて推こうしたら，筋の通った小論文になった。」などの声が聞かれ，生徒は，自分の
学習の成果を実感することができた。資料6は，生徒が書いた小論文である。

資料6 生徒が書いた小論文

《筆者とは逆の主張を述べた小論文》	《筆者と同じ主張を述べた小論文》
<p>情このとすは左伝の係動究る伝きて行親がけるう中 報この言る経右の選のののすの子た動から中心での人の にこいこ済すの択はのののすのしがつたのバのから人 支理換えが学すの進ははははははははははははははははは 配由えがを展の進ははははははははははははははははは さから同を展の進ははははははははははははははははは れらる。研究がつ動ははははははははははははははははは て。よ。研究がつ動ははははははははははははははははは る。人間の活動は遺 の活動は遺 は遺伝</p>	<p>《筆者と同じ主張を述べた小論文》 をト成り情の値たゲわ違学校導験た考の点の還 持ゲ立哲報観ないノのいの校のき出たをの明哲元 ちノ立学から教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 続のつ学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 ける。問の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 る。解の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 かある問の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 ら限の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 は立の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 したの学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 た自の学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元 由はの学がから教育ないはノのいの校のき出たをの明哲元</p>

(5) 授業研究の成果と課題

ア 成果

- ・ 論説文をもとに，その構成と根拠の挙げ方を学習し，それを自分の小論文を書く際の参
考にしたことで，説得力のある小論文について理解することができた。
- ・ 筆者が掲げた問題提起に対して，自分の立場から小論文を書いたことで，書く方向性を
明確にするとともに，筆者の根拠の妥当性を客観的に考えることができた。
- ・ コンピュータを活用したことで，学習を円滑に進めることができた。

イ 課題

今後は，生徒自身が身の回りの事象に対して問題意識をもち，そこから取り上げた問題
に対して自分の論を展開し，主張していくという，社会人として必要な能力を見据えた学
習に発展させていきたい。

3 研究のまとめ

(1) 成果

学習の目的や見通しをもつための工夫

単元の終末における，報告書等の作成や発表会などの自分の学習成果を形にできる時間の設定



・「何のために」、「だれに対して」書くのかという目的を明確にして学習に取り組むことができた。
・学習していることが何につながるのかを自覚しながら，意欲を持続させて学習に取り組むことができた。

児童生徒自身の生活経験や思い，興味・関心などを生かすことができる学習の設定



・取り上げる話題を自分のこととしてとらえたり，内容を深く取り上げたりしながら，自分の考えを適切に表現することができた。

自分の考えを適切に表現するための工夫
書くことの習慣化を図る活動

日常生活における出来事や自分の思いなどを継続して書き残す活動の設定



・自分の生活を振り返ったり，書くことに慣れ親しんだりすることができ，書くことに対する抵抗感を軽減することができた。
・出来事や自分の思いを適切に表現するために，表記上の工夫をしたり，語句を検討したりするなど，よりよい表現に対する認識を高めることができた。

得た情報を整理したり再構成したりし，発信する学習

多様な情報を収集したり，必要な情報を考えたりする時間の確保



・得た情報を比較したり，取捨選択したりしながら，自分の考えを十分に膨らませることができた。

相手や目的を明確にした上で，ワークシートや付せん紙などを用いて，情報を整理する学習の設定



・情報を羅列するのではなく，自分の意見を述べる上で，必要な情報を取り入れた文章を書くことができた。

情報を整理し，自分の立場から説明したり書き換えたりする学習の設定



・情報や文章を客観的にとらえるとともに，説得力のある根拠を検討したり，自分の考えを明確にしたりすることができた。

語句を増したり語彙を豊かにしたりするなど語感を磨く学習

自分の思いや場面の様子などを適切に言い表すための語句を考えたり，生徒相互で，その適切さについて意見交換を行う学習の設定

・語彙を増すとともに，語句を精選することの大切さを理解したり，語句から受ける感覚などを身に付けることができた。また，相手に適切に伝えるための表現についても理解することができた。

児童生徒が学びの成果を実感するための工夫

完成した報告書や作品等に対して，他者から評価や意見を受ける場の設定



・自分の報告書や作品等が認められたことで，自分の学習の成果を実感し，成就感と達成感をもつことができた。

完成した報告書や作品等を発表したり，公表したりできる場の設定



・自分の書いたものが他学年の児童に認められたり，応募した作品が入賞したりするなど，学びの喜びを味わうことができた。

(2) 今後の課題

- ・作者や筆者の意図，表現方法，根拠等をとらえ，自分の立場から再構成するなどの「読むこと」と「書くこと」との密接な関連を図った学習について検討していきたい。
- ・自分自身の生活や体験の中から課題を見だし，その解決策や改善策について文章を書くなどの日常生活や社会生活と結び付いた学習について検討していきたい。
- ・長文等を書くことを苦手とする傾向にある児童生徒の意識とその原因とを一層明確に洗い出し，書くことに喜びを感じるとともに，書くことの習慣化を図ることができる手立てについて検討していきたい。

関係者一覧

1 研究協力員

笠間市立友部小学校	教諭	藤枝 泰弘	
牛久市立向台小学校	教諭	塚本 桂子	
常総市立水海道小学校	教諭	篠崎 みどり	(平成19年度)
常陸太田市立峰山中学校	教諭	中嶋 正浩	
筑西市立下館南中学校	教諭	小倉 祐一	
茨城県立日立北高等学校	教諭	割貝 隆仁	
茨城県立伊奈高等学校	教諭	大谷 晃子	

2 茨城県教育研修センター

	所長	中村 一夫	
教科教育課	課長	小沼 光一	
同	課長	武井 秀一	(平成19年度)
同	指導主事	小林 正敏	
同	指導主事	渡辺 通子	